

人権ほつと元年 12月号

「なんで理科を勉強するの？」

大阪教育大学 特任講師

今枝史雄

教育界で「理科離れ」という言葉を聞くようになっていぶん経ちました。みなさんは子どもたちに「なんで理科を勉強するの？」と聞かれたら、なんと答えますか。少し答えるのに困るかもしれないですね。

私は特別支援教育の中でも知的障がいのある子どもたちの理科を研究しています。理由は知的障がいのある子どもたちが通う支援学校では理科がほとんど取り組まれていないからです。理科をしている割合は、中学校にあたる支援学校中学部は16%程度、高校にあたる支援学校高等部では33%程度です。通常の学校と比べるとかなり低く感じますが、理科は知的障がいのある子どもたちには必要ないのでしょうか。

こんなエピソードがあり

ます。私の知り合いの知的障がいのある方が、洗濯物がとても汚かったので、きれいになると思い、残っている洗剤を洗濯機に全部入れたそうです。たちまち1階の床は泡だらけになり、洗濯機も動かなくなってしまうました。私はその方に「洗剤も水に溶ける量が決まっているんです。理科とかで習いましたか？」と聞くと「学校で理科を受けてないし、知らなかった。」と答えました。この話は小学5年生で習う「ものの溶け方」の内容が関係します。このように私たちが何気なく過ごしている日常でも、理科で学んだ内容が溢れています。私たちは無意識のうちに理科で習った内容を日常生活に活かしています。知的障がいのある方はそれが苦手だと言われています。だからこそ私は支援学校でも理科を行い、日常生活に必要な内容を学ぶべきだと思います。

「なんで理科を勉強するの？」の私なりの回答は「自

分のできることは自分でする
生活を送るため」だと思いま
す。知的障がいのある方の社
会参加に向けて、今後理科の
取組が積み上がっていけば良
いと思っています。